

7月26日(火)午後7時から、第2回小中一貫教育推進協議会を開催しました。前回委員から出された疑問に対する回答に続き、「子どもにつけたい力(子ども像)」、「施設一体型小中一貫校(先進校視察に向けて)」の2つのテーマで意見交換を行いました。

1 前回の疑問への回答

Q1 いわゆる中1ギャップへの対応をどのようにしていくか。

A1 小小連携(小学校間の事前交流)、小中連携(授業・部活動体験等)を実施し入学時の環境変化への不安を軽減していく。学習内容の不安を軽減できるよう努める。

Q2 地域の教育力の活用をどのように推進していくか。

A2 地域とともに子どもの学びを支える「コミュニティ・スクール」という制度の導入を考えている。

Q3 小中一貫教育実施時、教員免許についてはどのようになるのか。

A3 小中両方の免許所有が望ましいが、現状では、小学校、中学校どちらかの免許でも、学校運営に大きな支障はないと先進地域の学校から確認している。

Q4 施設一体型の小中一貫校では、校長は一人だけなのか。

A4 多くの学校は校長1人、教頭2~3人だが、学校規模や市町村の考え方による。

Q5 児童生徒数に対する教員数の比率は増加するのか。

A5 教員数は、法律(及び県の基準)により決まる。小中一貫校の場合、小学校と中学校でそれぞれ計上し、合計することを基本的な考え方としている。

2 テーマ:子どもにつけたい力 どのような子どもに(大人に)育てほしいか

《意見交換前に未来の社会予測と子どもの現状について共有》

未来の社会

2040年の社会(現小6が30歳)を5500人の研究者の予測を元に文部科学省が表した絵図について事務局が解説を行いました。

驚くべき科学技術の進展が描かれていますが、今の子どもたちが生きていく社会の近未来像です。

【参照ホームページ】

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202001/detail/1421221_00015.html

学校の現状

2人の学校長(委員)から、今の小学校と中学校の現状や子どもの様子について紹介がありました。

- ・タブレットPC1人1台配布により、学びの幅や質が変わった。教師による子どもへの指導方法も変化する。
- ・目立った問題行動が少なくなった。
- ・子どもの中で「失敗したくない」という気持ちが強い。
- ・親がソフトになり、親子の距離感が近い。

《委員の意見》

- ・親子でスポーツをする際、技術面はタブレットが教えてくれる。親はメンタル面を教える。タブレットで正解はすぐ手に入るが、自分で吟味して身に付けてほしい。
- ・小さい集団でならば、失敗を恐れず意見を言い合える。学校においては、そのような機会の中で、伝え方や相手を傷つけない方法を学んでほしい。
- ・不易と流行があるが、2040年の未来像は、変わってはいけないことが抜けている。優しさや思いやりを大切にしたい。地域活動する際でも子どもの笑顔を引き出したい。
- ・文章のやりとりでは伝わらないこと(LINEなどでトラブル)がある。実際に発する言葉で、しっかり伝える力(コミュニケーション力)を身に付けてほしい。

- ・知りたいことはタブレットですぐ画面に出るが、本物に触れ感動してほしい。調べ、ページをめくり、覚え、そして実物に出会い、精神の豊かさを失わないでほしい。
- ・2040年の未来像に驚いたが、子どもたちはその中で生きていかねばならない。その力をつけることは大変だが、しっかり教育してもらいたい。



3 テーマ: ①三木市の現状等からの感想 ②先進校視察に向けて

《三木市の子ども数の現状とこれまでの教育委員会での協議の進展(小中一貫教育)について共有》

I 中学校区ごとの小中学校児童生徒数(R4.5.1現在)

①三木中学校区	1486人
②三木東中学校区	953人
③別所中学校区	421人
④緑が丘中学校区	1149人
⑤自由が丘中学校区	1105人
⑥吉川中学校区	317人

※ 三木小学校は、進学先が分かれるので①、②の両方で計上

II 三木市の子ども人口(5~14歳)予測

- ・国の機関の推計によると、三木市の子ども人口は、2045年に計2982人となることが予測されている。
- ・1学年あたりにすると約300人となる。

小中一貫教育に関するこれまでの協議(抜粋)

I 三木市の学校再編について 提言書 R1.8

- ・小中一貫教育(小中一貫校・義務教育学校への再編)をめざすこと。

II 学校再編に関する実施方針 R1.10

- ・「施設一体型」の小中一貫教育をめざす。
- ・第1学区(吉川地区)については、できるだけ早い再編を実施する。

III 総合教育会議

- ・施設一体型の学校の良さを共有した。R1.9
- ・吉川地区に施設一体型小中一貫校を建設し、モデル校としたい。R3.7
- ・学校同士が離れていても、全ての学校において「小中一貫教育」を推進する。R3.7

《委員の意見》

- ・切磋琢磨できる場が大切と考えている。統合を経て吉川小学校の子どもたちは、友達が増え、いろんな遊びや学びができることを喜んでいる。

【先進校視察を通じて知りたいこと】

- ・教科担任制の充実の実際 ・修学旅行等 行事の持ち方、位置付け
- ・評議会と生徒会の違い ・PTAの関わり方 ・家庭学習時間のめやす
- ・ステージ制、6-3制等様々な区切り方の意味や特徴ある行事の価値
- ・制服のあり方(ジェンダーへの配慮)、コミュニティ・スクールの推進

(ワークシートより)

- ・めざす学校像やめざす教員像などは、事前にどのように決定していったのか
- ・中学部教員がどのように小学部の授業に関わっているか、部活動の開始学年や指導者の配置
- ・小中一貫教育を推進しやすいと考えられる児童生徒数、東条学園の子ども・教員の思い
- ・体育館、教室等のサイズ、特徴ある施設について

東条学園は、新しい校舎での教育が始まって1年経っていないが、可能な範囲で疑問点を届け、回答を得たいと考える。



インフォメーション

- ・第3回協議会は、8月25日の午後に加東市にある東条学園の視察を行い、帰庁後に意見交換会を行います。

意見交換会は、17:20頃に開始予定
(視察から帰庁する時刻により前後します。)

場所:三木市役所5階 大会議室

お問い合わせ

三木市教育委員会学校再編室

電話 0794-89-2400

- ・ホームページも

ご覧ください。

ホームページURL

<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>

又は、「三木市 学校再編」で検索

